

はままつじょうはっくつつうしん  
浜松城発掘通信

№15

浜松市文化財課 2021年 2月 22日

航空写真撮影や航空レーザ計測を実施しました。

令和2年度の調査では、本丸北東隅の石垣や堀など、浜松城の構造にせまる重要な成果が得られました。詳細な記録を作成するため、UAV（無人航空機）を使用して、航空写真の撮影やレーザ計測などを行いました。



航空写真（東から調査区と天守閣をのぞむ）



## 発掘調査成果を記録する

発掘調査成果を効果的・効率的に記録するため、記録する対象物の特徴に合わせて、様々な記録手法を使用しています。



様々な記録手法（左：方眼紙に遺物の出土状態を記録、右：測量機器による計測）  
遺構などの特徴を観察しながら、記録を作成します。



UAVでの作業風景  
UAVにカメラや計測機器を搭載し、景観写真の撮影や広い範囲を素早く高精度で計測することができます。

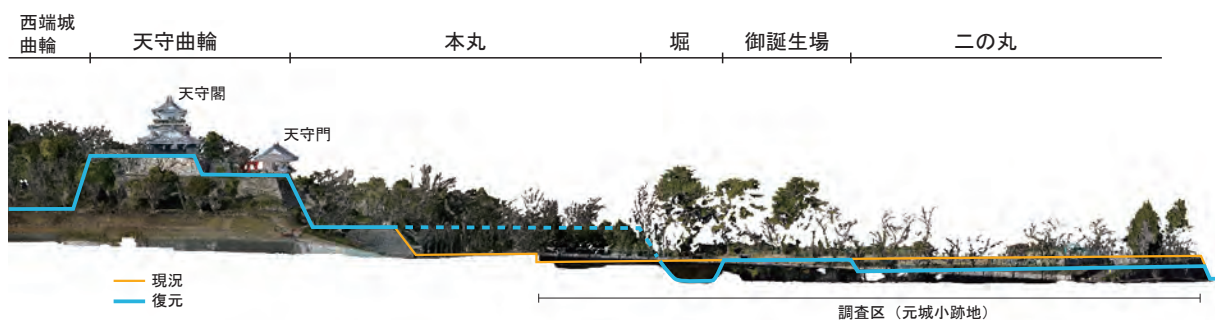


令和元年度調査オルソ画像



令和2年度調査オルソ画像

オルソ画像とは、レンズによる歪みをなくし、遺跡の真上からみたように処理した画像です。オルソ画像を作成することで、調査成果や過程を直感的に表現することが可能です。また、長期間にわたる調査成果を比較することも容易となります。



レーザ計測成果を活用した3次元モデル（南からみた調査対象地周辺）

レーザ計測を用いて3次元の情報を取得することで、3次元のモデルを作成することができ、様々な角度から浜松城を観察することができるようになります。